

概要報告

実施期日	7月28日(火)【午前】
部会名	小学校 外国語活動部会

テーマ 『どの子どもも楽しめる外国語活動の授業作りをめざして』

提案概要

○外国語の授業全般に関して

- ・「外国語を嫌いにさせない授業」「子どもが楽しいと思える授業」を心がけている。
- ・教師は授業で英語を使うが、1文7語まで、児童にとって分かりやすい単語を使う。
- ・児童には、英語を使うことを強要しない。自主的に答えられることを重視する。
- ・授業に当たっては、教師用の英語の台本を作って、それに沿って授業をしている。ただし、実際の授業は子ども達の様子や反応を見ながら柔軟に行っている。

○今回の授業について

児童に何を教えたいかを第一にテーマ(単元)設定をし、児童の知的好奇心に訴えかけられるような内容を考えてコンテンツを決め、テーマは『body parts』、コンテンツは『骨の数』とした。低学年から英語での体の部位には触れてきているため、部位名の羅列ではなく『骨の数』に着目することで興味や関心を引き出せると考えた。同時に、既習事項である十の位までの数の表し方を復習し、これから学習する百の位以上の数につなげられると考えた。・体の部分の名前を聞き取ることができること・聞き取ったことから予想する楽しさを味わうこと・体の部分の名前を知り英語で表現しようとしていること、を本時の目標とした。

○成果と課題

担任が英語を駆使して授業を行うことで児童にとって英語がより身近になっているが、担任の英語を聞いた子ども達が正しい英語を身につけられているのか不安である。

○中学校との連携

中学の先生とも連携して研究しているため、中学進学後の子ども達の現状を知ることができる。英語に対する抵抗は少ないようだが、文法や単語のつづり等に関しては苦手な様子が見られた。

質疑概要

・IEAとの打ち合わせの取り方は？

→専科の時間や昼休み。活動案を担任が用意しておいて内容をつめる。

・いろいろな要素の入った文を子ども達に話したときの児童の反応は？台本を作るのにかかる時間は？

→児童の反応を見ながらヒントになる単語を追加する等していく。初めからわかってくれることは少ないので、粘り強く英語で話しかけていく。台本は、はじめは3週間くらいかかった。今は、頭に構想があれば20～30分。

・子ども達は、何を目標に外国語の授業に臨めるようにしているのか

→外国語の授業に参加してみたいと思えることと、物怖じせず色々な人と話せるようになること

・台本を作るときに気をつけていることや、実際に入れた内容は？

→15分の内容の3セットで45分にしている。実例は、セブンスステップス→マヤ数字→ローマ数字

研究協議概要

○協議の柱；児童の知的好奇心に訴える題材や教材の工夫について

グループごとにテーマにそって活動案を作成し、発表した。

○グループのテーマと発表の要点

①曜日；これから挨拶等にも使える。覚える、簡単な会話、色々なカレンダー

あいさつ→カレンダーで今日の日付、曜日→カード等を用いて英語で練習→曜日を使った自分のスケジュール発表(ワークシート) 色々な種類のカレンダー(外国のものなど)を使って知的好奇心に訴える。

②形；体験的な授業で知的好奇心に訴える。「知る→確かめる→交流」の流れ。色々な形の言い方を知る(指し示し)

ながら言い方を確かめていく) →教師が英語で指示した形を教室内で探して触る活動(個人)→グループ毎に、国旗を使ったゲーム。国旗カードを裏返しそこに入っている形を言えたらもらえる。

- ③長さ；動物の歩幅をテーマにした。インチ、ヤード、尺なども提示する。→ネズミの歩幅、ウサギの歩幅、象の歩幅、キリンの歩幅→先生の歩幅、ウサインボルトの歩幅→自分の歩幅。歩幅を測り、他の人にも聞く。
- ④方向；6年生を想定。自分からやりたい、話したいという気持ちを持たせたい。自分からやりたくなるような授業にしたい。「昨日、先生はレストランに行ったのだが、間違えて行ってしまった。正しく行くには？」→方向の言い方を教える。→網目状の道を黒板に提示、地図記号を貼らせる。→スタートを決め、正しいレストランまでの道順をグループ毎に言いながら駒を進めていく。楽しくするための条件を付加したい。
- ⑤数；楽しみながら数を言う活動と、必然性のある活動を入れたい。身近な数(1~30)。活動案；「ザ セイム(自分に関する数を言い、同じ人を探す)」「アディション(足し算。向かい合った人と、指で出した数の合計を出す)」「握手(握ったまま何度か握りなおす。お互い息が合うかな?何人かで行う)」「トランプ(トランプの数字の合計)」
- ⑥感情；挨拶→6~7種類の感情の表情のカードを提示(キャラクター)→それぞれの感情は英語ではどう言うんだろう→言い方の練習→「リアクションゲーム」(それぞれの気持ちのときのリアクションの仕方を考える。リアクションをしながら、感情を英語で言う)→「じゃんけんゲーム」(やり方は色々出たが、感情のビンゴ形式が一番面白そうだった。じゃんけんとビンゴと感情、リアクションを盛り込む) 今後は、今回出てこなかった感情の言い方を調べる活動をしてよい。英語以外では?国内の方言では?等に広げていかれるかもしれない。
- ⑦色；6年生。何色?の質問と、それに対する答えができるようにしたい。既習の色の言い方を復習し、色水での混色をしながら質問や答えをしていく。→一人7枚同じ色の紙を持ち、友達と質問と答えをしながら相手の持っている色を当てたらもらえるようなゲームをする。

まとめ概要

- ①それぞれのグループの発表を聞いていて、なるほどと思うことがたくさんあった。活動案を作る際には生みの苦しみがあるが、子どもたちの実態を一番把握している担任が、子どものことを考えながら案を作っていくのが大事。どんな教科であっても、子ども達は楽しければ聞く。日本語で学習して楽しいと思うことは、英語で学習しても楽しい。話す言葉が外国語になると教師側のハードルはあがるが、それが伝わった際の喜びは大人でも感じることもあると思う。教師も児童もそうした気持ちを味わいながら、一緒に楽しく学習していけるとよい。
- ②先生が、授業の中で、児童にとってよい学習モデルとなっている。子ども達が知りたい、学びたい内容、意味のあるインプット、必然性等を考え、話し合われていたが、そうしたことが学習指導要領14ページに書かれている。これからの外国語活動の動向は、中学年、高学年でやり方が変わってくる。昨年度、外国語についてのリーダー研修があった。5年間かけて、伝達講習の形ですべての教員にいきわたるように考えられている。しかし、子ども達は変わらないので、私達はそうした変化に惑わされすぎることなく、子ども達が学びたくなるような内容で、意味のある活動、外国語に触れる場面を作っていくことが重要。